

# スルメイカの生殖腺発達についての 統計学的考察\* (抄録)

安達 二郎

スルメイカの体成長と生殖腺の発達の特徴として、雌雄による成長差が認められ全般に雌が大型であること、雄性先熟であること(浜部, 1965; 新谷, 1967; 名角, 1967; 通山 ほか, 1972)があげられる。しかしながら、これらはすべて観察結果によるものである。また成熟に関しては、雄の成熟に達する時期が雌に比較してどの程度早いのか具体性に乏しく、またその原因についてもまったく触れられていない。ここでは未熟および成熟個体の体重と生殖腺重量との関係から雌雄の体成長に伴う生殖腺の発達の相違について検討したので報告する。

## 要 約

スルメイカの体重と生殖腺重量の関係から雌雄の生殖腺の発達について検討した。得られた結果は次のように要約される。

- 1) 体重 (B.W) と生殖腺重量 (O.W T.W) の関係は直線回帰し、その関係式は使用した標本において

雌は 未熟期について

$$O.W = 0.021 (B.W - 50.5)$$

成熟期について

$$O.W = 0.033 (B.W - 200.0) + 5.785$$

雄は 未熟期について

$$T.W = 0.038 (B.W - 54.3)$$

成熟期について

$$T.W = 0.021 (B.W - 150.0) + 6.684 \text{ と表わされた。}$$

- 2) これらの回帰式から生殖腺の発達開始平均体重は、雌が 50.5 g, 雄は 54.3 g と推定された。生物学的最小形は雌が 200 g, 雄は 150 g で、その時の平均生殖腺重量は卵巣が 5.785 g, 精巣は 6.684 g と推定された。
- 3) 雌雄の未熟期と成熟期の回帰直線は、体重がそれぞれ 200.0 g, および 150.0 g で交わる可能性のあることが推定された。
- 4) 雄の成熟時期は雌よりも、ほぼ 1ヶ月早いことが推定された。

\* 水産海洋研究会報 第40号 (1982) に発表した。